

はじめに

社会の変化がこれまでにないスピードで進むなか、少子高齢化の進行、グローバル化、デジタル技術や生成 AI の急速な発展など、社会は大きく変わり続けています。

このような時代背景をもとに、文部科学省中央教育審議会教育課程企画特別部会において示された次期学習指導要領の論点整理では、子どもたちが生きる未来がますます予測困難な時代となる中で、しなやかに「自らの人生を舵取りできる力」が不可欠であり、そのような力を備えつつ、デジタル時代に主体的に社会参画する「民主的な社会の作り手」を育成することが喫緊の課題であると指摘されています。そのためには、一人一人の「好き」（興味・関心）を育み、「得意」を伸ばしながら学び全体への動機づけを図る取組みや、当事者意識をもって、自分の意見を形成し多様な他者と対話や合意を図る取組みが必要となります。また多様な個性や特性、背景を有する子どもが多くなっている実態に向き合い、多様性を個人や社会の力に変えるとともに、可能性を開花させ、個性が輝く教育の実現をめざすことが大切であるとされています。

これらの方向性をふまえ、私たちはどのような教育をめざすべきか、その答えのひとつに子どもが自ら考え、行動する力を育み、社会参画を果たすうえで必要となる資質能力を育成するキャリア教育があると考えます。

これらを実現させる1つの取組みとして、府教育庁ではこれまで、「2025年日本国際博覧会協会教育プログラム」を活用し、地域や社会の課題を解決し、よりよい姿の実現に向けて探究的な学習を展開する「わくわく・どきどき SDGs ジュニアプロジェクト」を実施してきました。令和8年度からは「わたしたちからはじめる未来へのアクション！～すべてのいのちが輝く社会に～」とテーマを刷新して設定し、取り組んでまいります。このテーマには、地域や社会の課題を自分事として捉え、未来に向けてアイデアを発信する力を育てほしい、そして多様な命、人々が自分らしく生きていける社会をつくってほしいとの願いを込めています。

本資料では、プロジェクトの取組みや、子どもたちが主体的に地域と関わり、学習を深めていく実践事例を紹介しています。「難しいことに挑戦する力」「他者と協働する力」「多様な社会の中で自ら行動する力」等の育成に向け、具体的にどのように取り組んでいけばいいのか、各校での取組みの参考としていただきたいと思います。

子どもたちの将来を見据えた適切な進路指導は、キャリア教育において最も重要な要素です。昨年度、公立高等学校入学者選抜では、オンライン出願システムが本格的に導入されました。また、令和10年度公立高等学校入学者選抜からは、「府立高校アクションプラン」に基づく新たな選抜制度となり、大きな変革時期を迎えます。

令和8年度においては、今後の選抜日程の変更をふまえた年間行事予定の検討等、準備を進めていただく重要な一年になります。また、すべての生徒が主体的に進路選択を行っていくためには、各高校の特色等を含めた、進路に関わる情報を生徒や保護者に適切に届けることが重要です。ぜひ、中学校だけではなく小学校の教職員の皆様とともに本資料を活用し、小中学校での系統的で切れめのないキャリア教育・進路指導を進めていただきたいと思います。

結びに、本資料の作成に携わっていただきました関係の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

令和8年3月

大阪府教育庁市町村教育室小中学校課
課長 宮本 洋介